

当院における悪性疾患に対する妊孕性温存治療の実際

今中 聖悟, 橋本 平嗣, 小林 浩
ミズクリニクメイワン

【目的】

日本で 1 年間に初回がん治療が開始される 40 歳未満 (CAYA 世代: Child(0-14 歳), Adolescent and Young Adult) の患者数は約 3 万 2000 人(0~14 歳: 約 2000 人、15~40 歳: 約 3 万人)とされている。医療技術の進歩でがん治療患者の治療後の生存率は飛躍的に向上し、それに伴い治療後に妊娠・出産を望む人が増加している。今回当院の悪性疾患治療に対する妊孕性温存の現状について報告する。【方法】当院開院の 2020 年 5 月から 2022 年 5 月末の間に、妊孕性温存を目的として他院より紹介を受け、当院を受診した(女性患者 10 名、男性患者 13 名)を対象とした。調査に際し、全例文書をもってインフォームドコンセントを得た。

【結果】

①女性患者: 平均年齢は 32.2 歳 (18-39 歳) であり、疾患内訳は乳癌 8 名、血液疾患 (悪性リンパ腫など) 2 名であった。未婚 8 名、既婚 2 名であり、受精卵凍結を 3 名 (既婚 2 名+未婚 1 名)、未受精卵凍結を 5 名 (すべて未婚症例) に行った。2 例はカウンセリング後、治療を希望されなかった。施行したすべての症例にランダムスタート法を用いた卵巣刺激を行い、刺激開始から採卵までの日数は平均 10.9 日 (8-14 日) であり、施行したすべての症例で受精卵、または未受精卵凍結を行うことができた。合併症として OHSS 重症例 1 名の入院があったが、早期退院となり原疾患治療の遅延はなかった。

②男性患者: 平均年齢は 32.2 歳であり、疾患内訳は血液疾患 (悪性リンパ腫など) 3 名、精巣腫瘍 2 名、悪性軟部腫瘍 2 名、悪性骨腫瘍 1 名、膀胱癌 1 名、舌癌 1 名、前立腺癌 1 名、縦隔腫瘍 1 名、松果体腫瘍 1 名であった。12 名が精子凍結保存を希望され、その中で精子凍結ができなかった患者は 2 名いた。その原因は Azoospermia (急性骨髄性白血病に対して寛解導入治療後)、体調不良で採精困難がそれぞれ 1 名ずつであった。

【結論】

がんと生殖に関する情報が医療関係者のみならず社会に浸透すること、そしてがん治療病院と生殖施設の連携が、迅速な患者の妊孕性温存に必要な不可欠であると考えられる。